Die（友情）
Freundschaft

事務局：
〒010-1632 秋田市新屋大川町 12-3
秋田公立美術大学　野村研究室内
http://www.jdg-akita.org
(018)888-8110
nomura@akibi.ac.jp

## 姉妹都市提携 35 周年を祝してのパッサウ訪問
## ――秋田日独協会の関わりと今後の展望――

会長　添野 武彦

少し時間が経ちましたが、新年明けましてお目出度うございます。今年も様々な行事や予定が組まれておりますが、会員の皆様、よろしくお願い致します。

さて、昨年は秋田市パッサウ市姉妹都市提携 35 周年という事で、私共秋田市民がパッサウ市を訪問する番でした。両市の姉妹都市交流は、故高田景二市長さんのご努力で成り立ったもので、交流開始の初期には、旭北小学校次いで高清水小学校がそれぞれノイシュテフト小学校、インシュタット小学校との生徒交流などが行われました。この様な特徴ある行事などを織り込みながら、その後も両市当局のご努力と、私共日独協会会員の積極的な関わりで、姉妹都市関係は連綿と続いて参りました。

今回 35 周年という事で、川村理事はじめ高清水小学校関係の方々が、インシュタット小学校を久し振りに訪問され、旧職員が若干残っておられた事もあり、学校を挙げての歓迎を受けられました。一方、旭北小学校関係の方々は、残念ながら学校訪問はなりませんでした。しかし、当時大変お世話になり鬼籍に入られた方については、ご遺族の方々と共に墓参が叶いました。これらについては、パッサウ市の地方紙に大きな記事として取り上げられていました。今後も個人的関係を重視した草の根的繋がりが大切であり、両市ひいては両国の提携交流、或は日独協会活動しての基礎となるものと確信しています。地道な交流がこれからも続いていくことを期待しております。

さて、節目となる今回の訪問に際し、私はこの訪問が多くの参加会員にとって思い出深いものとなって欲しいと考えていました。ご存知の様に、パッサウ市には聖シュテファン大聖堂がありますから、この教会内で、秋田市・パッサウ市両市民による合唱が出来ればと、途方もない空想を抱きました。

そこで３年前、当時のパッサウ独日協会会長であったラウシャーさんに連絡し、教会の音楽監督の方に私共の希望を伝えて頂きました。その後、その監督の方がお亡くなりになった事もあり、紆余曲折がありましたが、最終的にラウシャーさんの並々ならぬ御尽力と、その後の音楽関連の重責を担われた現音楽監督のウンターグッゲンバーガー氏のご理解を得て、大聖堂での合唱を教会合唱弾の方々と共演できる事となりました。曲目はシューベルト作【ト長調ミサ・D167】です。この知らせを受け、早速、私共の協会理事をされている羽川武先生に指揮・指導を、伴奏は協会会員の近藤美穂子さんにお願いし、練習を始める事としました。協会会員だけでは人数的にも、また実力的にも心許ないので、市合唱連盟会長の北林芳則氏に相談し、市内の合唱団の一部の方々の賛助を得ることにしました。最終的に秋田市からは 32 名、教会合唱団と合わせて約 70 人の大合唱となりました。

秋田市では味わうことの出来ない雰囲気と、大きな石造りの教会という音響効果抜群の環境の下、演奏が行われました。合唱曲途中でのパイプオルガン演奏とオーケストラ演奏の挿入などもあり、練習成果を余す事なく発揮でき、参加した方々には深い感銘を与える事が出来たと自負しております。

この他にも、両市協会会員の交流は、ラウシャー前会長の後を受けて新会長となられたパルーザ氏の大変なご尽力もあり、成功裏に終了しました。

但し、パッサウ市側が準備して下さった《秋田物産展》は、運営に大きな改善の余地がありました。折角の会場にありながら、秋田市（少し欲張って秋田県でも良い）の産業・産物を宣伝する機会を与えられていたのに、その場を極めて矮小な企画でお茶を濁したのには、市当局者ではないので何とも言えない分・隔靴掻痒の感情を抑える事が出来ませんでした。私たち日独協会は、今後この様な機会に、行政に出来るだけ積極的に関与し、良い方向に向かう様提言していきたいと考えます。また、草の根的連携を深める事で、協会会員が一層満足の得られる様に協会が相談にのるなど、関わって行きたいと思っています。

今年は、まず夏に秋田市からスポーツ少年団をパッ

サウ市に招待する企画が、昨年の訪問時に秋田市長に話されている旨、仄聞しています。そして 2021 年には、聖シュテファン大聖堂の合唱団が秋田を訪れる希望を持っている、との事も伺っています。これらを積極的に支援し、若者の参加を促して行きたいと考えています。この様なことを積み上げて、日独協会会員が多少なりとも増え且つ若返り、さらに活発な活動を継続する事が今後の課題であろうと思います。

会員の皆様の積極的な関わりを期待します。今年もまた元気に、楽しい集まりを持って行きたいと思います。皆様宜しくお願いします。

---

**≪姉妹都市提携 35 周年記念パッサウ訪問について≫**

姉妹都市提携 35 周年を記念して、2019 年 10 月秋田市から総勢約 70 名がパッサウを訪問しました。その模様を訪問団員の皆様からご寄稿いただきました。

**「秋田市・パッサウ市姉妹都市提携 35 周年記念訪問団に参加してみて」**

**秋田市民合唱連盟**
**会長　北林　芳則**

この度の参加は二度目で、前回は 25 年前の 10 周年記念に参加しました。期間は 15 日間で、パッサウ市 4 日間のホームシティとオーストリア・ザルツブルクとスイス・ルッツエルンの観光でした。前回もパッサウ市シュテファン大聖堂でシューベルトのミサ曲ト長調Ｄ167 を約 70 名で羽川武先生指揮で、姉妹都市 10 周年訪問記念合唱団の単独演奏し、パッサウ市民と交流して参りました。

この度は、8 日間の短期間の訪問でしたが、パッサウ市及び独日協会の種々に亘る歓迎レセプションには頭が下がる思いがしました。

例えば、三河川クルージング、市庁舎大ホールでの歓迎交流会、ホテル森の城での晩餐会、オーベルハウスレストランでの昼食会そしてシュテファン大聖堂でのオルガンコンサートは世界最大のパイプ 17,974 本のオルガン演奏をドームで聴くことはこの上とない幸せを感じた次第です。本当に心温まる歓迎に感謝申し上げます。

また、パッサウ市内ギャリーで秋田物産展示会の開催にも参加し秋田の銘酒をパッサウ市民にＰＲしました。ジェスチャーとパフォーマンスで「ヤーパン・サーケ」を呼びかけ来場者と交流出来たことも、楽しいひとときでした。

そして、なによりもこの度参加して強く感銘したのは、シューベルト・ミサ曲ト長調 D167 をシュテファン大聖堂オーケストラ、合唱団そして指揮者等の皆様と素晴らしい合同演奏が出来たことです。参加した一人一人にとって、一生涯の想い出となることと思います。

一方、観光としては、世界遺産の町チェコのチェスキー・クルムロフの町並みとチェコのチェスキー・クルムロフ城を中心とする昔ながらの光景とチェコ二番目の観光プラハは、オプショナルツアーでしたが、プラハ城内のステンドグラスにあたった太陽光線の美しさは、まるで別世界にいるような感覚になりました。

最後に、秋田日独協会添野会長はじめ企画に携わった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

オーベルハウス内で

聖シュテファン大聖堂での合同合唱

---

**「聖シュテファン大聖堂でのパッサウ市民との合同合唱　―姉妹都市提携 35 周年を祝して―」**

**会長　添野　武彦**

故高田景二市長さんの時代に提携された秋田市・パッサウ市姉妹都市提携も、2019 年には早いもので 35 周年を迎えました。人間で言えば、明らかに一世代が交替する年数です。この様な節目となる時のパッサウ市訪問に際し、私は参加する多くの会員にとって思い出深い訪問にしたいと考えていました。

ご存知の様に、パッサウ市には聖シュテファン大聖

堂があります。そこで、その聖堂で、秋田市・パッサウ市両市民による合唱が出来ればと、途方もない空想を抱きました。

まず３年前、当時のパッサウ独日協会会長であったラウシャーさんに連絡し、教会の音楽監督の方に私共の希望を伝えて頂きました。その後、その監督の方がお亡くなりになった事もあり、紆余曲折がありましたが、最終的にラウシャーさんの並々ならぬ御尽力と、その後に音楽監督の重責を担われたウンターグッゲンバーガー氏のご理解を得て、大聖堂での合唱を教会合唱団の方々と共演できる事となりました。曲目はシューベルト作【ト長調ミサ・D167】です。この知らせを受け、早速、私共の協会理事をされている羽川武先生に指揮・指導を、伴奏は協会会員の近藤美穂子さんにお願いし、練習を始める事としました。協会会員だけでは人数的にも、また実力的にも心許ないので、市合唱連盟会長の北林芳則氏に相談し、市内の合唱団の一部の方々の賛助を得ることにしました。折角の機会を得る事が出来たのですから、ドイツの方々にも満足して頂ける様な演奏にしたいと、賛助の方々には役不足ではあったでしょうが、月に２回合計 20 回の練習を行いました。ラテン語など不慣れな歌詞と初心者には難しい曲も、15 回目を超えた辺りから平均的に出来る様になり、賛助メンバーの力強い支援もあり、何とか様になっていきました。羽川先生から提示された日本の歌組曲も歌うこととして、パッサウ市に出掛けました。

現地では僅か２回の合同練習でしたが、音楽監督氏からは、多少の発音を直された程度で、殆んど羽川先生のご指導通りに、本番に向かう事が出来ました。最終的に秋田市からは 32 名、教会合唱団と合わせて約 70 人の大合唱となりました。

秋田市では味わうことの出来ない雰囲気と、大きな石造りの教会という音響効果抜群の中でのパイプオルガン演奏とオーケストラ演奏の挿入などで、合唱に参加した方々並びに聴衆となられた方々には、深い感銘を与えた演奏が出来たと自負しております。後日談ですが、パッサウから見知らぬ発信人の年賀状が来ました。中を見ましたら、この演奏会で、私の左隣で歌っていたバスの方でした。やはり良い思い出になった旨、認められていました。

昨年、日本中を沸かせたラグビーではありませんが、ワンチームとして国際交流に向かうのも、今後の日独協会のあり方かなと考えさせられました。兎も角、一年の長き練習に耐えてご協力下さった秋田日独協会の会員各位に感謝します。

ウンターグッゲンバーガー音楽監督と

秋田市広報係撮影を引用

## 「最後の“PASSAU”公式訪問　－ 2019 Oktober －」

**副会長　渋谷　義博**

秋田市とパッサウ市が、高田景次市長と Dr. エミール・ブリヒタ市長により、公式に両市の姉妹都市提携調印書に署名したのは 1984 年 4 月 8 日である。本年 10 月は、提携 35 周年記念行事に出席のため、久し振りでのパッサウ訪問が実現した。

両市の交流の軌跡に思いを巡らせたとき、どうしてもその起点に触れなければ「何故パッサウに深い思いを寄せる」のか説明できない。

1982 年、秋田市にＵターンした私は、1987 年、企画調整課に人事異動となり、ドイツ担当の任務を与えられるとともに、秋田日独協会の事務局員に任命され、特に国際交流を推進する上で、まだまだ脆弱な基盤しか持ち合わせていなかった民間の国際交流団体が、秋田市と効果的な市民協働を為すための云わば“装置”となり、協会の創設者且つ名誉会長であられた故高田景次市長から大いに薫陶を受けながら、“国際交流に関する高邁な理念”を叩き込まれた。

取り分け、パッサウ市との姉妹都市交流に際して、秋田市の文化発展を目途とし、同市を「ヨーロッパ文化移入の拠点都市」と位置付け、パッサウ市当局、パ

ッサウ独日協会はもとより、ドイツ大使館をはじめとする関係機関と常に綿密な連携を保ちつつ、様々な分野における国際交流事業を企画立案することが求められ、10年間、具現化を図るために東奔西走した日々は、今でも鮮明に脳裏に焼き付いている。

その後、秋田日独協会の会員として一市民の視座に立ち、交流推進に向けて鋭意取り組み、悠悠35年の歳月を共に過ごしたことになるが、パッサウ市との姉妹都市交流活動が、秋田市の文化の推進にどれだけ貢献したかについては、後世の検証を待たなければならない。

なかんずく、「“姉妹都市提携 35 周年記念合唱公演＝Die Messe in G-Dur D167 von Schubert”を、彼の聖シュテファン大聖堂でパッサウ市民との共演により実現し、多大な称賛と感動を得たことは、これまでの長きに亘る同市との交流が齎した象徴的な成果である。」と私たち自身が誇りに思うことに、異論を放つ人はおられないであろう。

次回、周年記念事業で公式にパッサウを訪問する機会は、2029年と十年後であり、正直自らの生涯はもう閉じられているかもしれないとの“諦観の念”が、この度の訪問に繋がったことは事実である。

ドイツで人々が好んで引用する格言に、とても好きな一句がある。

「 Das Leben geht aber weiter, auch wenn es nicht mehr so ist wie vorher ！」

その“超訳”は、「逆境に在るときこそ反骨精神で前へ！」

翻って自らは、苛まれている“諦観の念”を奇貨として、2029年もパッサウの地に在りたいと願っているところである ?!?

末尾に切望すること；Möge die Freundschaft zwischen beiden Städten Akita und Passau weiterhin reiche Früchte tragen !!! ・・・秋田市―パッサウ市間の友情が、尚一層豊かな実りを齎しますように！

**秋田市―パッサウ市姉妹都市提携35周年記念合唱公演**
**演奏曲：DIE MESSE IN G-DUR D167 VON SCHUBERT**
**日　時：2019年10月24日　19：30開演**
**会　場：Dom St.Stephan PASSAU （聖シュテファン大聖堂）**
**指　揮：Herr Domkapellmeister Andreas Unterguggenberger**

## 「パッサウ市姉妹提携 35 周年記念訪問団参加に寄せて」

**会員　佐藤　裕司**

24-Oct-19　その日がとうとうやってきた。パッサウでの合同練習では、現地の方のすぐ脇に陣取り耳で聞きながら発音をまね「ちょっと良くなったかな」なぞと思いながらの本番。寒い大聖堂のひな壇で、空に向かうような高い高い天井めがけて歌った。カトリック信者ではない私でも、合唱していると不思議な高揚感でいっぱいとなった。神の思し召しか。

過日、「シュテファン大聖堂でミサ曲の合唱をする」添野会長の提案に、私は一生のうちこんな機会はこれしか無いだろうと。無謀にも「参加します」と言って練習を始めて約1年。22-Oct-19 現地での練習では、音楽監督に「皆さん非常によく練習してきましたね」との言葉をいただいた。羽川先生・添野会長の指導と合唱団の方々の支援のおかげだと感謝の気持ちでいっぱいになった。私の小・中学校時代（1959～67）ではまだ学級対抗合唱大会など無く、高校・大学とフォークソングなど口ずさむ程度。その後合唱など接する機会はほとんどなく、カラオケなどはずっと後の時代のこと。まして今回のシューベルトのミサ曲などは想像もつかなかったが、良い出来栄えであったように思えた。終了後の市庁舎下での打ち上げパーティーでは、テノールの方に竿燈の豆絞りをプレゼント。いかに使うか身振り手振りで伝えた。

今秋のパッサウは天候に恵まれ日中は上着が要らないくらいであった。23-Oct-19 萩原さんご一家のホ

ストファミリー「フランチェスカ シュレッターさん」の墓参にご一緒させていただき、妻の雅子は持参した花を供えさせていただいた。前回 2015 年には元気な姿を見せていたがその後訃報を聞き、雅子は今回の訪問の際墓参したいと考え、パッサウ会（旭北小初回訪問団有志で構成された親睦会、今年で 31 年目）のメンバーと計画していた。雅子は旭北小学校の初回訪問（1988年11月）以降長きにわたり交流を続けている。私はポーターとして4回同行しているが歳月を感じる訪問でもあった。

24-Oct-19 大聖堂での本番

22-Oct-19 大聖堂附属の練習会場にて

23-Oct-19 フランチェスカさん墓前で

## 「ノイシュテフト小学校の友情」

**会員　萩原　易雄**

小春日和のその日は、各地からのグループ旅行者の輪であふれる、そこは、ツアー井上夫人から待ち合わせ場所と指示されたパッサウ駅前であった。旅行者の喧騒の中に、パルーザ会長、ツアーご夫妻と見え、暫くの挨拶の内に、思い巡らす今一人の女性が到着した。昭和 63 年 11 月 21 日、訪問先ノイシュテフト小学校で、教師でもあり 2 泊のホームステイ受入れ先のシュレッター夫人の面影残す、娘マリア・ペヒテルさんであった。

この度の、私のパッサウ市訪問の主眼は、マリアさんの御両親への墓参でもあった。

学校親善訪問から始まる 31 年間は、旭北とノイシュテフト両小学校の交流と共に、シュレッターご夫妻と私、我が家族との度々の訪問と文通は、築かれる厚情となった。

同様に、両小学校、秋田とパッサウ両市の親善交流に深く関わってきた、旭北に通う子供の親御さんであった伊藤夫妻、加賀谷親子、佐藤夫妻と我が家族の合同墓参となった。

マリアさんと墓参について計画を図ってきたところ、教師に就いているため日程調整が難しいとの返事には、彼女の学校同窓であったパルーザ氏の助力が働き、彼女は、車で 1 時間以上要する地から来訪し、墓前まで案内頂くこととなった。墓前に供える献花は、両市姉妹都市提携 10 周年記念事業の「パッサウ美術工芸展覧会」のための事前打ち合わせ、実施の際のお世話も頂いた、ツアーご夫妻のお心使いがあった。又、パルーザ会長との協力依頼と同様に、これまでの小学校交流、工芸展開催等々の諸事柄には、常に日独協会役員渋谷さんのご配慮とご尽力を特筆する。

今日、当時のノイシュテフト小学校は存在しない。しかし、姉妹校親善に始まる広い知己の輪と厚い友情は、明日へ続くのである。

14 名は、合掌することとなった。

**≪令和元年定時総会・講演会開催≫**

2019 年 7 月 6 日(土)、「アキタパークホテル」にて盛大に開催しました(参加者:40 名)。定時総会終了後、渋谷義博副会長が“中世の街・ニュールンベルク”と題し講演。SIEMENS 時代の様子、ニュールンベルクの魅力、ドイツと日本の文化の違いなどを多数のスライドと一緒にご紹介いただきました。

**≪秋田市国際フェスタ 2019 に参加≫**

2019 年 11 月 16 日（土)、秋田拠点センターアルヴェ 1 階「きらめき広場」で「秋田市国際フェスタ 2019」（秋田市制 130 周年記念事業）が開催されました。

秋田日独協会は、パッサウ市紹介ブースを担当しました。今回、ブースで応対した会員は、10 月のパッサウ訪問団に加わった者が多かったことから、ブースに来られた方々にパッサウのことを熱く語ることができました。また、合唱団としてパッサウを訪問された方々にもお越しいただき、パッサウ訪問の話に花が咲きました。

ステージ脇のモニターでは、パッサウ市での合唱の様子を流していただきました。

会員の熱さに触発されたのか、準備していた入会案内書は全て渡すことができ、その場で入会してくださった男性もいらっしゃいました。

**≪新会員紹介≫**

（法人会員）セカイセールスコンサルティング（中橋圭輔様）
（個人会員）渡辺北斗様、原田喜美雄様、池田みどり様

**≪2020 年の予定≫**

| | |
|---|---|
| 2 月 10 日 | イナ・レーパル駐日大使の歓迎懇親会参加（東京都港区） |
| 2 月下旬 | 会報（Nr.12）発行 |
| 3 月 14 日 | パッサウ独日協会副会長ツェルニー氏歓迎会 |
| 7 月上旬 | 定時総会・記念講演会（駐日大使講演予定） |
| 7 月下旬 | 会報（Nr.13）発行 |
| 8 月 | 創立 50 周年誌発行準備スタート |
| 10 月 4 日 | 「秋田国際フェスティバル」参加 |
| 11 月初旬 | 「手巻き寿司講習会 in パッサウ・ミュンヘン」（主催：パッサウ独日協会、講師：本会員） |

**ドイツ語で格言･諺: Ohne Winter wäre der Frühling nur halb so schön.**

***- Walter Ludin, Schweizer Journalist-***

**冬がなければ、春の美しさは半減してしまう。**

**≪編集後記≫**

今回はパッサウ市訪問の特集号として市民交流の様子をたっぷりとお届けしました。大聖堂内での合唱がいかに素晴らしかったか、目に浮かぶようです。次回はパッサウから訪問する予定があるとのこと。こうして交流は続いていくと思うと感慨深いです。

会員の皆さんからの寄稿やメッセージ、そして、ドイツに関する話題などを広く募集します。送り先は、表紙の事務局の住所へ、または、メールにてお送りください。

**法人会員**　**（株）秋田魁新報社様**　**（株）JTB 東北秋田支店様**
**（株）東北ｉツアーズ様**　**（株）日本旅行東北秋田支店様**　**セカイセールスコンサルティング様**